

「生命を支える笑顔の絆」

横浜医療センター附属横浜看護学校
松橋 綾子

人間は、生まれて多くの人との出逢いを繰り返している。私達は、毎日の生活の中での出逢いを覚えているだろうか？ 意識した出逢いをしているだろうか？

2011（平成23）年1月21日、明るく元気なニュースが一足早く日本に春をもたらした。マラソンとヨットで地球を東回りで1周した間寛平さんがゴールした。2008（平成20）年12月17日の大阪をスタートし、18カ国、約4万1000キロのマラソンの旅である。約2年間の世界マラソンでの出逢いは、間寛平さんに何をもたらしたのだろうか？ また、間寛平さんと出逢った国々の方は、何を感じたのだろうか？ 間寛平さんを通して世界が繋がったゴールの瞬間であった。

平成23年1月21日、テレビでは間寛平さんのゴールを伝える番組が放送されていた。

多くの友人、家族が待つゴールの瞬間。2年の月日を越えて目標を達成した間寛平さんは満足感を涙より満面の笑顔で表現していた。間さんのゴールを迎える参加者も笑顔だった。

間寛平さんは、一日約50キロ、多い日は70キロの距離を走り続けた。18カ国の言葉をもっていたわけではない。その間、世界各国での共通語は、「笑い」であった。自分の「笑いの力」を伝え走り続けた。全く知らない国へ到着しゴールのVサイン。新しい

国にゴールした記念撮影は、自国の方との穏やかで、なごやかで、のどかな「笑顔の和」が写し出されていた。初めて出逢う者同士の記念撮影。それなのに120%の笑顔である。どうしてこんなに楽しい記念撮影ができるのか？ それまでは無縁の人達だった。ゴールを目指して走り続けてきた走者と自国への訪問者を暖かく笑顔で迎えてくれた人との出逢いの和。「笑いが人と人の絆を結び、世界が一つであるという絆を証明した瞬間」である。

地球一周に懸けた自分の夢。人間関係が希薄と言われる時代。人の心をつなぎとめる力となり、離れられない想いと不思議な親近感を育んだ「笑顔の絆」。人と人との絆の深さを感じたゴールの瞬間である。人と人との絆を繋ぎ自分の夢を形にしたゴールであった。

医療の現場では、日々、何人かの人との出逢いがあるのだろうか？

医療現場での日々出逢いを覚えているだろうか？ 意識した出逢いをしているだろうか？

医療技術が高度化する今日、医学技術には人間性が求められている。「今を生きている」人に元気をもたらす医療が求められている。医療者として一人一人の心を繋ぎ生命を支える技術が求められている。それは、相手を想う心を「笑顔という言葉にする」ことである。